

THE
ULTIMATE
HOUSE

所在地：山梨県山中湖村
敷地面積：4003.06m²
延床面積：299.76m²
設計：アーネスト・モーキテクツ



ガーデンクリニック最高顧問医師

大庭英信

Hidenobu Oba

1967年福岡県生まれ。東京慈恵会医科大学卒業。大塚美容外科、帝京大学溝野口病院等を経て'99年より日本・シンガポールでガーデンクリニックを運営。



家のどこにいても眺められる
ガレージ



あらゆる角度から愛車の表情を
窺い知れる、クルマと住む家



ジに悶絶！

上：ガレージ前のスペースでは、友人などとバーべキュー／パーティーも。名車を眺めながら、グラス談議に花が咲く。下：玄関を入ると、ガラスの向こうに名車たちのノーズがお目見え。

深

い縁の中、現れたのは、まるで海外の美術館と見

紛うばかりの豪壮な邸宅。さらに長いアプローチには博物館級

のクルマがずらり！「クルマと一緒に住める家。それが子供の頃から夢だつたんです」と教えてくれたのは、国内

外で美容整形クリニックを経営するガーデンクリニック最高顧問医師の大庭英信氏だ。

ひと目でこの地を即決した、という理由もリビングを見れば納得だ。連なる窓の向こうには遮ることなく雄大な富士山がそびえ立ち、モダンなミニオットイの家具を飾えた解放感あふれるリビングダイニング。富士山ビューの寝室やバスルームなど、邸宅の素晴らしさは書き尽くせないほどあるのだが、「僕はクルマが置ければそれだけで良かつたんです(笑)」と大庭氏。1階に設えたガレージのほかガレージ棟も設置。ギャラリーのようにクルマを並べ、あらゆる角度から愛でることができる。

「朝起きて山中湖を一周、あるいは富士スカイラインで富士山を回る。古いクルマも多いので僕にとってこの周辺はドライブコースとしても最高なんです」子供時代、空地に乗り捨てられた軽トラに乗り、「ドキドキしながらハンドルを握つて遊んでながらハンドルを握つて遊んでから愛でることができる。

「自分的好きなクルマを探して、とことんメンテナンスし、乗つて楽しむだけ。だからあまり価値はないんです(笑)」

P●●のフェラーリのP4(レプリカ)も、閉館したスポーツカー博物館で朽ち果てていたものを譲ってもらい、すべて修理。本物のフェラーリのエンジンを載せて復活させた。

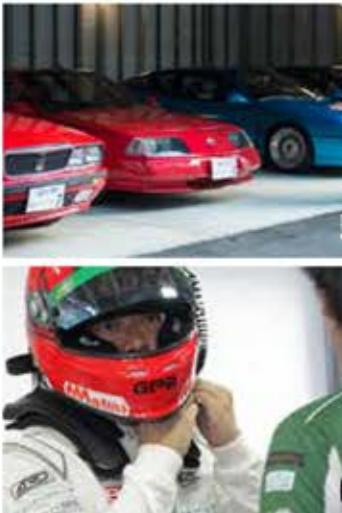
生年と同じ年式のヤデラック・エルドラド、ユーミンのアルバムジャケットにも描かれた1954年式コルベットや、映画「アメリカン・グラフィティ」と同じ白色に塗りかえたサンダーバード、映画「ブリティ・ウーマン」のロータス・エスプリなど、彼が所有するクルマにはすべてにストーリーがある。

「クルマの原型がわからないぐらいの改造は大嫌い。こういう生き立ったからこのデザイン、このスペックなどと、クルマのルーツを感じながら、あるべき姿に戻してあげるのが好きなんです」

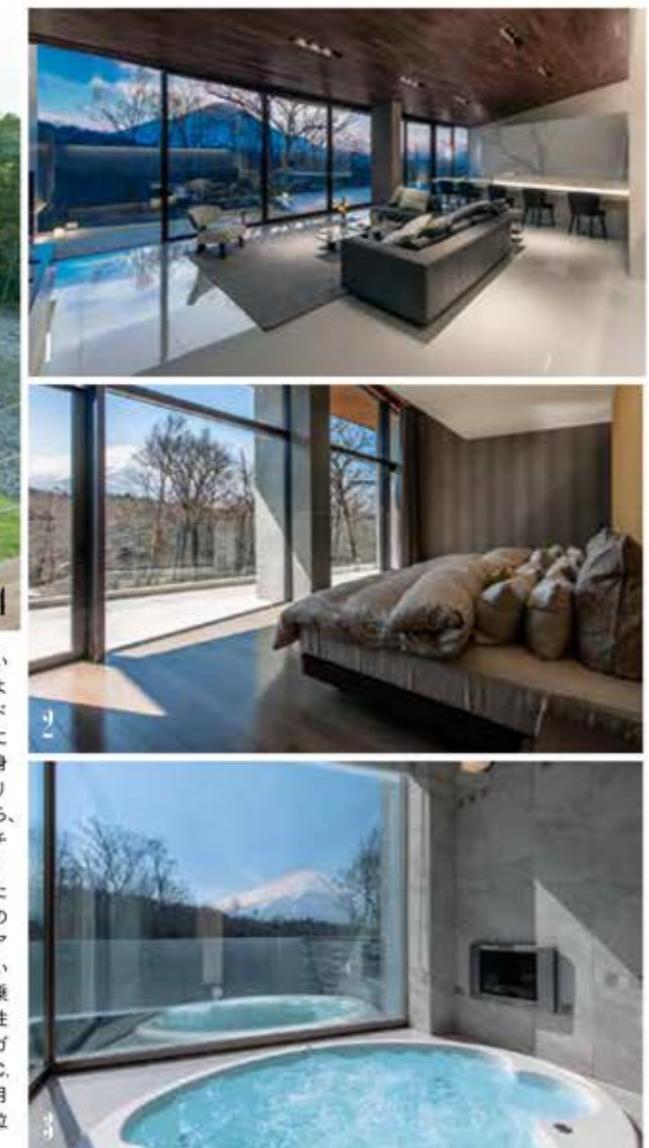
「きれいになりたいと言つても、それは仕事にも通じている。

「それは仕事にも通じている。きれいになりたいと言つても、それは仕事にも通じている。それは仕事にも通じている。」

6



木や石など天然の素材を使用した、高い天井のリビング。窓枠が邪魔にならないよう、最大のガラスを探したそう。ベッドルームからの眺望。目が覚めたら、そこに富士山がある贅沢。広いジャグジーに身を横たえて見えるのは、絵画のように切り取られた絶景。リビング前のテラスから、愛車がギャラリーのように並ぶアプローチを臨む。冬は-20°C近くにもなる山中湖。雪の日は、手前の芝生のスロープが子供たちのそり遊びの場所に。数あるクルマの中で、一番のお気に入りはこのルノー・アルピーヌV6ターボ。「派手なクルマではないので、『意外だ』と言われます(笑)でも、乗った感じがしきりく、僕には一番相性がいいクルマです」オーナーである「ガーデンクリニックレーシングチーム(G.C.R.T.)」ではドライバーとしても参戦。8月の富士スピードウェイでのレースでは4位に。将来はル・マンを目指す。



理想の形や思いはひとり一人まったく違います。患者さんがどんな気持ちで悩んできたか。その悩みの元を見つけ、患者さんの本人の良さを活かすことが大切なんです」

自分がクルマによって得た喜びを分かち合いたいと「一般社団法人日本乗物振興会」を設立。このクルマを開放し、老若男女問わず触って、乗つて楽しめる機会も創出する。さらに今年はガーデンクリニックレーシングチーム(G.C.R.T.)を発足。チームオーナー兼ドライバーとして、富士スピードウェイのインターブロトシリーズに参戦している。

「一瞬の迷いが許されない手術同様に、集中力が必要なレースは、メンタルトレーニングにもなっています」と思います」午前中はこの家で子どもと遊ぶ、午後は富士スピードウェイでレース。そんなギャップも楽しいという大庭氏。大庭氏にとってレースと仕事の間にある、自分のスイッチを切り替えるられる場所、それがこの家なのだ。

「患者さんに、人生が変わった」と言われることほど嬉しいことはありません」ガレージのクルマたちが喋れたら、きっと同じことを言うに違いない。



The View of select

1. 部屋の窓や、玄関からもクルマが覗く
玄関からはガレージ内を、階段からはガレージ前に並ぶクルマを、室内に多用されたガラス窓から眺められる。

2. サーキットに出るにはうってつけの立地
発足したチームのドライバー門口雄飛氏もレース前に宿泊。レース後は、ガレージ前で仲間とBBQパーティも。

3. 富士山が随所に顔をだす設計
庄屋のリビングのほか、寝室のベッドからも富士山が。「朝風呂で見る富士山は幸せな気分になります」(大庭氏)